

下方の發誓のみに見る」等云云。道遷云く、「付嘱とは、此の經は唯下方踊出の菩薩に付す。何が故にか
 爾る。法是れ久成の法なるに由るが故に、久成の人に付す」等云云。夫れ文殊師利菩薩は東方金色世界の
 不動仏の弟子、觀音は西方無量壽佛の弟子、藥王菩薩は日月淨明德佛の弟子、普賢菩薩は宝威佛の弟
 子なり。一往、釈尊の行化を扶けんが為に娑婆世界に來入す。又爾前・迹門の菩薩なり。本法所持の
 人に非ざれば、末法の弘法に足らざる者か。經に云く、「爾の時に世尊、乃至、一切の衆の前に、大神力を
 現じたまう。広長舌を出して上梵世に至らしめ、乃至、十方世界の衆の宝樹下の師子座上の諸佛も亦復
 是の如く、広長舌を出したまう」等云云。夫れ顯・蜜二道、一切の大・小乘經の中に釈迦・諸佛並坐し、
 舌相梵天に至るの文之無し。阿彌陀經の広長舌相三千を覆うは有名無実なり。般若經の舌相三千、光を
 放ちて般若を説きしも全く証明に非ず。此れ皆兼帶の故、久遠を覆相するが故なり。是の如く十神力を
 現じて地涌の菩薩に妙法の五字を囑累して云く、經に云く、「爾の時に佛、上行等の菩薩大衆に告げた
 まわく、諸佛の神力は是の如く無量無辺不可思議なり。若し我是の神力を以て、無量無辺百千萬億阿僧
 祇劫に於て、囑累の爲の故に此の經の功德を説かんに、猶お尽すこと能わじ。要を以て之を言わば、如
 來の一切の所有の法、如來の一切の自在の神力、如來の一切の秘要の藏、如來の一切の甚深の事、皆此
 の經に於て宣示顯説す」等云云。天台云く、「爾時佛告上行より下は、第三に結要付属なり」云云。伝教
 云く、「又神力品に云く、以要言之、如來一切、所有之法、乃至、宣示顯説已上、明らかに知りぬ、果分
 の一切の所有の法、果分の一切の自在の神力、果分の一切の秘要の藏、果分の一切の甚深の事、皆法花

に於て宣示顯説するなり」等云云。此の十神力は妙法蓮花經の五字を以て上行・安立行・淨行・無
 辺行等の四大菩薩に授与したまうなり。前の五神力は在世の爲、後の五神力は滅後の爲なり。爾りと雖
 も、再往之を論ずれば一向に滅後の爲なり。故に次下の文に云く、「仏の滅度の後に、能く此の經を持た
 んを以ての故に、諸仏皆歡喜して、無量の神力を現じたまう」等云云。次下の囑累品に云く、「爾の時に
 釈迦牟尼仏、法座より起つて大神力を現じたまう。右の手を以て、無量の菩薩摩訶薩の頂を摩でて、乃
 至、今以て汝等に付属す」等云云。地涌の菩薩を以て頭と爲して、迹化・他方、乃至、梵・釈・四天等
 に此の經を囑累したまう。「十方より來りたまえる諸の分身の仏、各本土に還り、乃至、多宝仏の塔、
 還つて故の如くしたまうべし」等云云。藥王品已下、乃至、涅槃經等は地涌の菩薩去り了りて、迹化の衆
 ・他方の菩薩等の爲に重ねて之を付属したまう。摺拾遺囑是なり。

疑いて云く、正・像二千年の間に地涌千界閻浮提に出現して、此の經を流通するや。答えて曰く、爾ら
 ず。驚きて云く、法花經並に本門は仏滅後を以て本と爲して、先ず地涌千界に之を授与すと。何ぞ正・
 像に出現して此の經を弘通せざるや。答えて云く、宣べず。重ねて問うて云く、如何。答う、之を宣べ
 ず。又重ねて問う、如何。答えて曰く、之を宣ふれば、一切世間の諸人、威音王仏の末法の如く、又我
 弟子の中にも粗之を説かば皆誹謗を爲すべし。黙止せんのみ。求めて云く、説かずんば、汝慳貪に墮ち
 ん。答えて曰く、進退惟れ谷まされり。試みに粗之を説かん。法師品に云く、「況んや滅度の後をや」。寿
 量品に云く、「今留めて此に在く」。分別功德品に云く、「惡世末法の時」。藥王品に云く、「後の五百歲、